

新島の火山活動解説資料（令和3年3月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1）

式根監視カメラ（丹後山の西南西約4km）による観測では、噴気は認められません。

・地震や微動の発生状況（図2-①②、図3）

新島の山体及びその周辺の地震活動は低調に経過し、火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図2-③④、図4、図5）

GNSS 連続観測及び傾斜計による観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。



図1 新島 丹後山周辺の状況
（3月14日、式根監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

今回の火山活動解説資料（令和3年4月分）は令和3年5月13日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

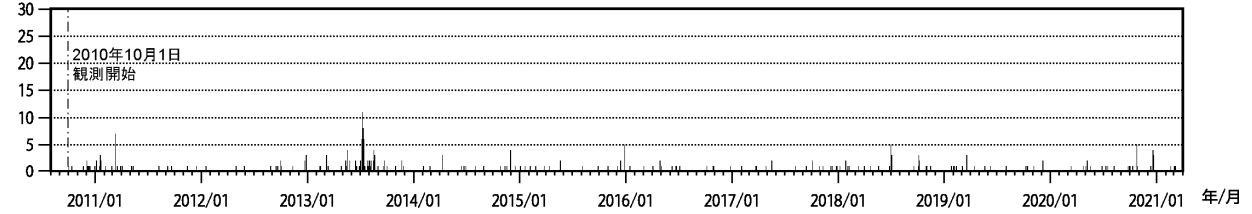
<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、東京都及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

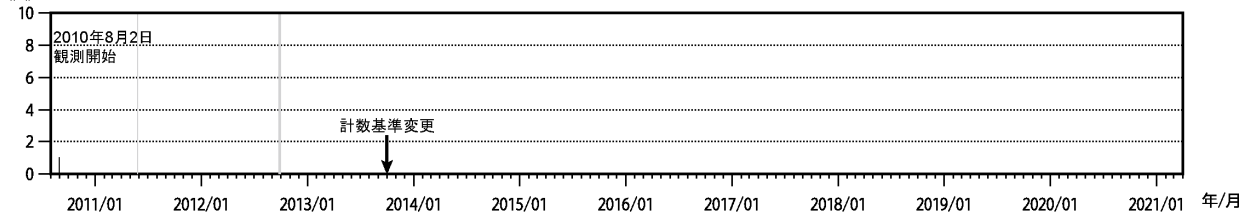
資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています。

【計数基準の変遷】	
A型地震	2010年10月1日（観測開始）～ 瀬戸山南から半径約8km、深さ約20km以内
B型地震	2010年8月2日～2013年9月30日 瀬戸山南振幅0.8 μ m/s以上
変更	2013年10月1日～ 瀬戸山南振幅4.0 μ m/s以上

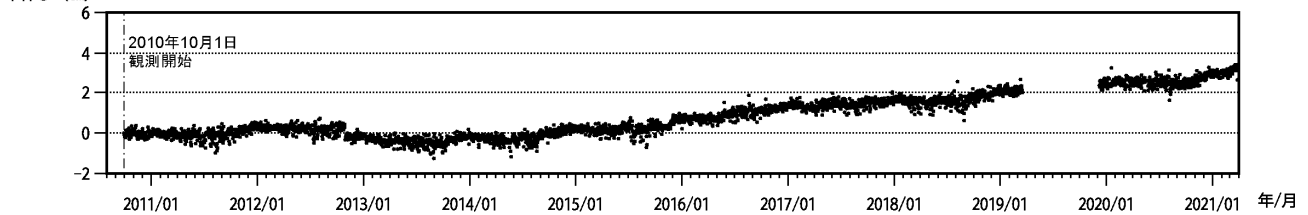
① 日別A型地震回数



② 日別B型地震回数



③ GNSS観測 若郷-新島(国) (基線長 6173m)



④ GNSS観測 式根島(国)-新島(国) (基線長 6092m)

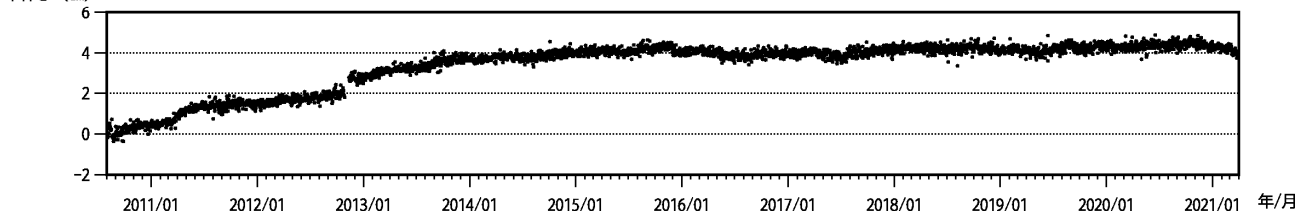


図2 新島 火山活動経過図(2010年8月2日～2021年3月31日)

- ① 2021年4月8日現在、2020年4月18日から10月23日まで、及び2021年1月9日から3月7日までの地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、それらの前後の期間と比較して微小な地震での震源決定数の変化（増減）が見られます。
- ② のグラフの灰色部分は機器障害のため欠測を示しています。
- ③、④ のグラフは図5のGNSS基線③、④に対応しています。また、グラフの空白部分は欠測を示しています。

- ・ 今期間、火山性地震は少ない状態で経過しました。
- ・ GNSS連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

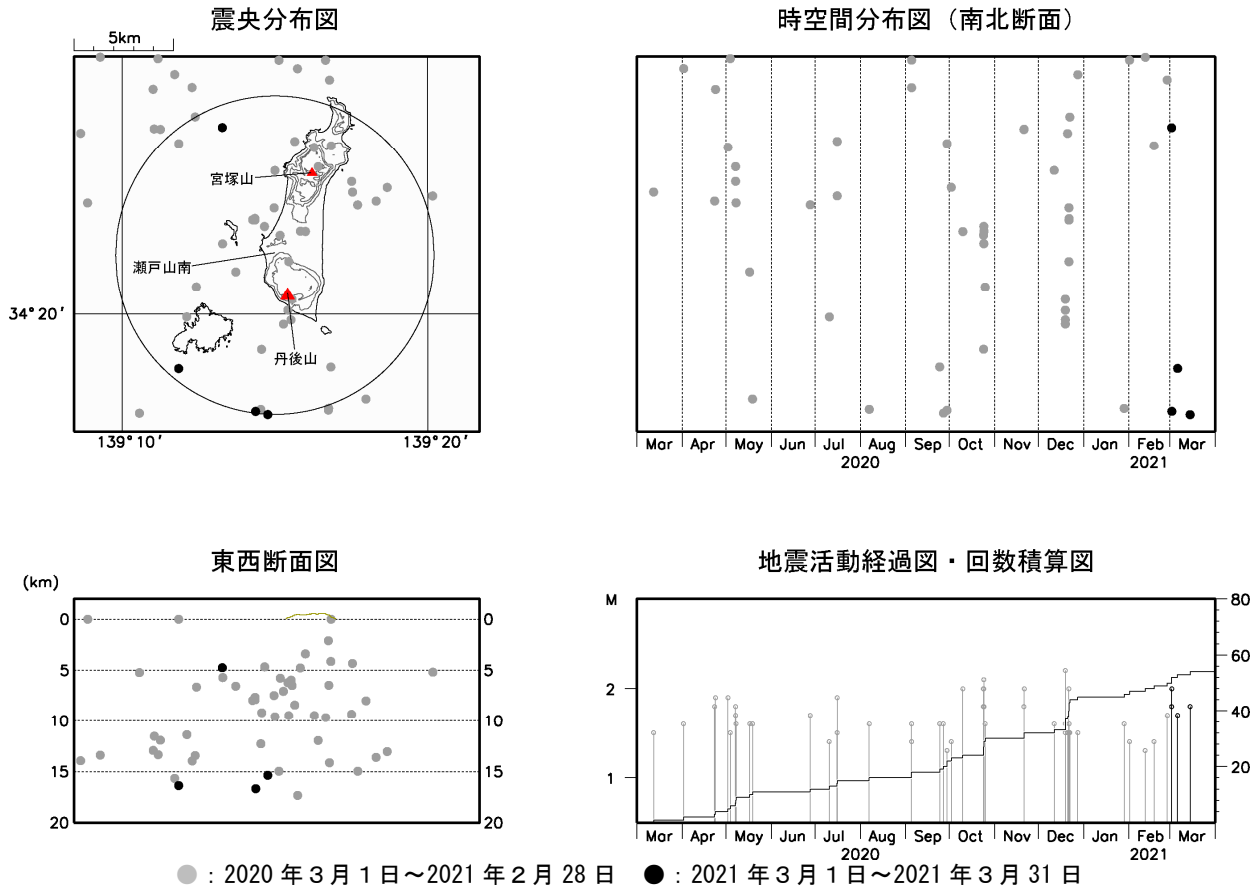


図3 新島 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2020年3月1日～2021年3月31日）

広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。

M（マグニチュード）は地震の規模を表し、M1.3以上の地震を示しています。

図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

計数対象（瀬戸山南から半径約8km、深さ約20km以内）以外の地震が含まれるため、図2-①の日別A型地震回数とは異なります。

震央分布図中の円は火山性地震の回数の計数対象（瀬戸山南から半径8km、深さ20km以内）の範囲を示しています。

この図では、関係機関の地震波形を一元的に処理し、地震観測点の標高を考慮する等した新手法で得られた震源を用いています（ただし、2020年8月以前の地震については火山活動評価のための参考震源です）。

2021年4月8日現在、2020年4月18日から10月23日まで、及び2021年1月9日から3月7日までの地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、それらの前後の期間と比較して微小な地震での震源決定数の変化（増減）が見られます。

- ・今期間、山体及びその周辺の火山性地震は少ない状態で経過しました。

